

新潟県

平成5年

公民館月報

12月

第490号

特集 障害者の学習と公民館



天然記念物

将軍杉

樹齡約一四〇〇年、
幹まわり十六メートル
我が国最大級のスギ。

根元の近くから六本の
大支幹に分かれてい
るのは、その昔、村人
がこの杉を切り、船を
造ろうと計画したとこ
ろ、一夜にしてスアズ
ブと地面に沈んでし
まったという伝説があ
る。

写真・文提供

東蒲原郡三川村公民館

第16回全国公民館研究

第16回全国公民館研究集会開催



変化のはげしい社会への対応を しなやかに、着実な活動を

和歌山市文化会館を主会場に

第16回全国公民館研究集会が和歌山市文化会館を主会場にして、去る10月21日(木)22日(金)の二日間に行われ開催

された。参加者数三千人による分科会と全体会と終始熱心な研究討議が展開された。研究主題は「生涯学習社会における公民館の果たす役割につ

いて考えよう」におき「激しく変化する社会をみつめ、しなやかに、着実に活動を続けよう」と目ごろの諸課題を持ち寄り十二の分科会に分かれて研究協議がすすめられた。

例年の全国大会を踏襲している関係上、極端な変化は見当たらないものの、分科会の設定に苦心のあとがにじみ出ていたように思われる。例えば、第一分科会に見られたように、これまで「生涯学習と公民館」を研究テーマとした分科会が数年続いてきたものが姿を消し「ふるさとの文化と公民館」という、より今日的なテーマが「地域づくり」分科会から独立して設定されていた点が目新しいものであった。また、各分科会にそれぞれ二人の都道府県からの基調

提案(実践発表)が用意されていたが、それぞれ異なる発表内容で、重複が避けられているなど主管の和歌山県公連の細かい配慮が行き届き、思い入れがよく分かるような運営であった。

さらには、第二日の記念講演の講師としてイーデスハンソン氏が招聘され「私の日本観」と題する国際理解に関する、極め

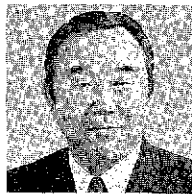
て時宜を得た講演と、氏ならではと思われる参加者とのふれあいを深めていたのが印象的であった。ちなみに、本県からの参加者はわずかに四名であったが、参加分科会の充実した研究討議について異口同音に高く評価していた。

研究集会印象記

感銘深かった記念講演

聖籠町公民館長

渡 辺 廣 吉



徳川御三家の紀伊で開かれた全国公民館研究集会。全体集会で特に感銘深かった記念講演を振り返り感想としたい。

講師は「私の日本観」と題して講演されたイーデスハンソンさん。彼女はインド生まれ。宣教師の父と渡米し二十一歳で来日。日本の文化・伝統・生活感覚を肌で掴まれた人。講演内容は、彼女が来日し三十余年になるが、その生活体験などから日本人の言葉や習慣の面を独特の

視点で捉え、国際化社会での「日本、日本人の果たすべき役割」などについてであった。特に印象深く感じたことは、「外国人を受け入れるのではなく、単に髪・肌などの外見で捉えてしまう」ことである。例えば、日本に帰化し、日本の文化・伝統・生活感覚等日本人と何ら変わらないのに、日本人として観ない。日本人も言葉や習慣など環境が変われば全く違った人間形成がなされる。中国の残留日本人孤児はその例である。この講演で国際化社会への多様な対応の必要性を痛感した次第である。

栃尾市公民館

文部大臣表彰を受賞

平成五年度の全国優良公民館三十七館の一館として本県の栃尾市公民館が選ばれ、文部大臣表彰を受賞。去る十一月一日、多田克彦公民館長が出席し、表彰並びに皇居波の間で天皇陛下の御拝謁を受け、ねぎらいのお言葉を賜った。

かな公民館活動を行なっている。公民館施設は、文化会館との複合施設ながら、相互に連携をとって運営の成果をあげている点。また、四つの谷沿いに散在する集落に入つの分館を配置し、地域づくりの拠点として「明るい文化都市」を目指すソフト面の中心的役割を担い、積極的に事業を展開している点などが評価されたもの。

栃尾市公民館は、本県では数少ない専任常勤公民館長を擁し4人の専任主事によってきめ細



視 点

私は二歳の頃脳性小児麻痺になり手足が不自由になりました。幼少の頃は何かできない自分にはイヤイヤしている毎日でした。

十歳の時、何でも挑戦してみようと思いはじめた。箸でうどんを食べることができました。



た。こんなに楽しいことがこの世の中にあつたのかという驚きと感動、身体に電流が走ったようでした。

車椅子の私がみんなのじゃまにならないか

気持はみんなと変わらない

稲田 和子

それは二歳の頃脳性小児麻痺になり手足が不自由になりました。幼少の頃は何かできない自分にはイヤイヤしている毎日でした。

十歳の時、何でも挑戦してみようと思いはじめた。箸でうどんを食べることができました。

塩沢町公民館の高齢者教育の一端

富田 宗一



高齡化社会を迎え、年ごとに変化する社会情勢の中

で、心の豊かさや充実した生活を求めて学び、積極的に社会参加をし社会奉仕をしていく中に自らのいきがいの実現と健康管理に努めることが必要であることを考えた。高齢者教育として実施した一つの「金城大学講座」を紹介して参考に供したい。

本講座は現代社会生活に对应できる新しい知識の習得と、健康で楽しく老後を過ごせる力を養い、学習を通じて仲間づくりを勧めることを趣旨としている。

本講座は冬期を除き五月から十月までで計七回・主会場は町公民館である。

五月十日開講式に続いて「老後の生活設計」と題し県貯蓄推進委員会の吉沢久子殿の講演。「地域福祉と前向き人生」のテーマで特養老ホームみなみ園石田勇園長殿の講演。

「コシヒカリを食べて元気いっぱい」と題された林家こん

ひ る ば

最終回は十月十五日、花積正夫先生の講話・閉講式。という内容で修了したが、受講生は知識や趣味など身につけようと講師の話に真剣に耳を傾け、時には涙を流しながら、また時には腹をかかえて阿々大笑することもあり、大変な好評裡に修了することができた。

最終日の閉講式では、本講座に五回以上出席した受講生四〇一人に町長より修了証書が授与された。

本年度受講延人員二、八三八名であった。そして本講座は本年で十三回を数えていることはそれなりの成果があるものと思う。

(塩沢町公民館運営審議会委員)

課題を追って と公民館

分科会協議内容

社教主事 梶 瑤 子
館 長 馬 場 三 次
教 育 長 青 木 昭 平

関東申信越静ブロックの公民館研究大会で、身体障害者への対応を課題として分科会を設定したのは今回が初めてである。これは、主管の東京都公連の思い入れであるばかりでなく、身障者の自立意識の向上、ひいては社会参加意欲の高まりが公民館に対する今日的課題として迫ってきているからであり、今後一層重要な課題になろう。

◆実践発表の要旨

1、鳥屋野地区公民館の概要

鳥屋野地区公民館のサービスイリアは面積15km²、人口約6万3千人。新幹線開通と同時に駅南口周辺ショッピング街が急速に発展した街。農家と新興住宅の割合は1対9。転入人は市内全体の約2割を占める移動の激しい地区で20〜40歳代の働きざかりで子育て中の家庭が多い。

身障者用施設としては、障害者用トイレ、エレベーターのチャイム、車椅子の設置、点字案内板、歩道の点字ブロックとスロープが整備されている。

2、友情ケルンへの取り組み

(1) きっかけ

昭和56年は国際障害者年で大規模な行事がマスコミをにぎわした。しかし、障害者が真に必要なとしているのは小さいながらも自分が生活している地域の中で、気軽に参加できる小集団であらうと思ひ、地域の福祉活動の担い手としての民生委員と一緒に、障害者と共にできる事業はないものかと相談した。

調査の結果をもとに、地区に住む障害者と健常者が交流し、共に楽しみながら相互理解を深める事業が必要であるという結論になり、さっそく新しい事業

に取り組むことになった。それは、地域で障害のある者となし者とが触れ合いを通して友情の石を積み上げていこうというもの。事業名を「友情ケルン」と決め、年2〜3回シリーズで実施していくことにした。

(2) 事業の実施経過

①初めの5年間は年3回開催。実施した内容は音楽の集い、料理教室、ゲーム、ユニークダンス、ゲートボール、手芸教室等公民館の施設内での交流を深めた。それらの事業の一例を紹介すると、障害にもめげず力強く自作の歌を歌う全旨の高校生に大きな拍手が送られたり、民生委員の手作りのクッキーとコーヒード和やかさを増したりした。

(2) その後は年2回開催。内容の

マンネリ化を防ぐため、2回目のアンケート調査を実施した。企画会議に身障者連合の役員を入れ、意見を聞きながらすすめたこと。その中に「野外に出てみたい」との意見が多く、自然に親しむ集い、海の集い、野外でのお茶会、グルメの旅と施設見学も含め、野外での交流を深めた。

3、事業の運営

(1) 経費

① 公民館利用者が開くチャリテイバザーの益金(手づくり作品即売、文化祭不用品販売)。
② 社会福祉協議会より地域活動費として助成金。
③ 参加者負担の事業もある。(百円〜3千円の範囲内で)

(2) 企画会議

民生委員、身障者連合会役員ハンディキャップレク研究会、レクリエーションクラブ、公民館の代表で年1回三月に開催し一年間の反省と翌年度の企画をする。

(3) 広報 市報にいがた、民生委員、身障者連合会を通して。

4、問題点と今後の課題

(1) 障害が多様のため一堂に会してのつどいには無理が多い。
(2) プログラムのマンネリ化の打破と手づくりの暖かさを折り込む工夫が必要。
(3) 民生委員活動の原点に戻って地域内障害者へのアプローチ。
(4) 企画運営は障害者、健常者が役割分担してすすめる。
(5) 障害者の社会進出が進み友情ケルンへの参加不足が目立つようになった。
(6) 事業を実施する上での最大の問題点は、①安全対策、②トイレの問題である。

5、事業の評価

(1) 障害を持つ人たちとの交流でその人達の立場に立つてものを考えることができ、一人の人間としてのつき合いをすることの大切さを教えてもらった。
(2) 障害者もこのことがきっかけで公民館に団体登録して年間活動を始めたグループが2団体ある。また、カラオケ、詩吟、籐工芸、水彩画、木目込み人形等のグループに入り多くの人と楽しんでる姿が多くみられるようになった。

(3) これからも障害者、健常者がふれあい交流を通して人間的な豊かな地域社会づくりをめざしていかなければならないと思う。この事業が大きな刺激になったと



「支え合う地域づくり」目指して

新潟市坂井輪地区公民館

新潟市の坂井輪地区公民館では、高齢化と核家族化の進む今こそ、地域の人々がお互いに手を取り合うことの必要な時代であるとし、「支え合う地域づくり」を課題に、ベターライフ坂井輪、民生委員、婦人会、自治会関係者を実行委員とし、「高齢化社会を考える集い」を実施している。今年は三年目のイベントとしてユニークな事業を実施したので覗いてみた。(上)

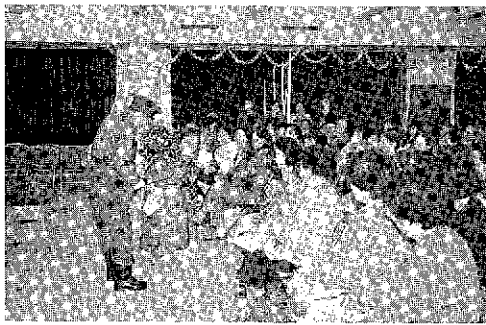
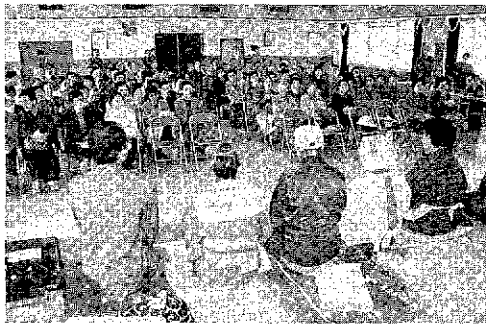
坂井輪地区公民館は八万六千人余の人口をサービエリアとする住宅密集地域で、昭和40年ころから急成長した新興住宅地域である。

この公民館に「ベターライフ坂井輪」という高齢化社会を考えるグループがある。構成員は12人、月1回の例会をもちつつ、

大和町の介護老人ボランティアグループ「よもぎの会」による「寸劇鑑賞会」であった。

寸劇の観劇に先立って、「ふれあい会食」なる昼食会が開催された。これは「ベターライフさかいわ」のボランティアサービ

「高齢化社会を考える集い」を行なってきたが、過去2年は著名な講師や実践家による講義中心の学習だったので、今年は行動的なイベントにしようとして取り上げたのが「ふれあい会食」と



スによるもので、四十人余の高齢者が参加していた。このうち十人は老人クラブが勧誘したクラブ員で、他の人たちはクラブに所属しない地域在住の高齢者が、クチコミや広報紙によって参加した人たちであったという。このことは「支え合う地域

ボランティアグループ

「よもぎの会」とは

南魚沼郡大和町の高齢者福祉ボランティア「よもぎの会」は高齢者の介護活動と、その社会問題を寸劇として広く地域社会に問題提起しているユニークなグループである。すでに社会福祉協議会の情報提供などにより大方の承知しているところと思うが、はじめて聞く人のためいさ少し補足しよう。

「大和町ほけ老人を抱える家族の会」の有志により、介護に苦悩しつつ数年を経て、

介護生活にピリオッドを打ったとき、その苦痛や問題を語り合い、文字で伝えるより、目に見える方法として寸劇により訴えることにし「よもぎの会」を結成したものの。劇の内容は、四部構成で各部分程度寸劇からなり、すべて自作自演の素人劇団。終始魚沼弁による泥臭さと、各自の介護の実体験をモチーフとしているだけに切迫感を持ち、訴えていることがインパクトに伝わってくる。

づくりに関心と期待を持つ人の多いことを知る証左であるとともに、その反響の大きかったことに、担当の秋山恵子社会教育主事も驚いていた。

続く「よもぎの会」による寸劇には120余人が参加しホールは一杯になっていた。

素人劇団とはいいながら、出演キャストの全員が老人介護に苦悩した人たちが(現に介護中の人もおり)自らの実体験をモチーフとした劇であるだけに、

女人のどんな名優によるよりも切実感にあふれた寸劇で、共感の涙と笑いに終始しつつ、地域

福祉の重要性を訴えていた。

このイベントは、高齢化社会においては誰しも住み慣れた地域で、親しい人たちと共にありたいと願うもの。それも、元気な時はもちろん、周囲の手助けが必要になればなるほどその思いは強くなる。このような「地域福祉」を視点据えた地域づくりのために、一人一人がどうかかわっていくべきかの問題を提起したすばらしいイベントであった。

【写真説明】寸劇上演中のスナップ。坂井輪地区館の小川昇社教主事も賛助出演していた。

サークル交流

楽しいこととしてますか 燕市ファミーコール (ぞうれっしや合唱団)

言わせていただければ、私達の集まりは公民館活動のサンブルみたいな団体です。なぜなら下はり才(お腹の中の赤ちゃん)から上は私のような40代のおばさんまで、あらゆる年代のメンバーで構成されていますので。おやお劇場活動の中で生まれた「ぞうれっしや」を歌いたという思いを集めて、第一号のぞうれっしやを走らせてから足かけ四年。今、第三回のコン



サートを目前にして練習にも気が入りつつあります。文字通り家族ぐるみで通って来る一家あり、親御さんの送迎つきで参加している子供達ありで、それぞれに大変な中にも楽しさをつけにやって来る人達ばかりです。新しい友人もできました。合唱という地味な活動は定着しにくい地域性もありますが、小さな灯を次の仲間へ手渡したいと考えます。生まれた町に住んでる町が「好き」と言える仲間作りや、毎日のくらしの中の楽しさ探しをしていきたいなあと思う今日この頃です。
(ファミーコール 加藤豊子記)

個性の時代

自分のカラーを作品に

中之口村手芸愛好会

「手芸」と聞くとあこがれもあって手あみのセーターを連想してしまふものですが、とても幅広いものです。

今、特に力を入れている作品は、布きれで作る「ゆり」の花とパン粘土を使った「千両」の木です。

布、わた、針金などを加工して色をつけると、本物と見分け



られないくらいそっくりなもの
ができあがります。

一つ違ふところがあるとする
ば、布のもつ柔らかな風合いが、
本物の植物にない暖かさとなっ
てとてもやさしい花や木ができ
ます。

また、同じ作品を製作しよう
としても大小があつたり、色が
微妙に違つたりして作る人の個
性が出ます。

製作中は、気の合った人ばかり
でとてもにぎやかです。

今後は、人形やコサージュ、
結婚式のブーケなど作ろうと
意欲を燃やしております。

月2回授業の火曜日、待ち
遠しい感じです。

(中之口村手芸愛好会
松崎英子記)

上越市立公民館直江津地区館主任
真保定治氏(52歳)

公民館勤務三年目、現在諏訪
地区と北諏訪地区の二分館と直
江津地区館の講座を一部担当し
ている。それだけに事務量も多
いが持ちこたえの企画力と実行力
で全てやりとおしてしまふ。分
館活動も地域の住民情報を的確
に把握し楽しく参加出来るよう
企画に時間をかける。それだけ
に創意工夫をこらした
きめの細か
な企画が地
域住民に受



素顔拝見

青海町公民館長
渡辺 紀一氏(？歳)

今年4月、25年ぶりに社会教
育課に来られました。

文化施設の建設にまつわる公
民館活動の在り方について、持
ち前の行動力とユーモアを武器
に、先進地の視察や理事者等と
の懇談会などを数多く開催し、
いろいろな方面からの要素を多
角的に交えて協議を重ねていら
れます。そして、課長が考える



けがよい。最初は公民館活動の
目的意識もある一点を見つめる
事で他は何も見えなかつたとい
う。職員研修で学び絶大な熱意
と気迫を持って実践活動と日頃
の研さんの結果今は活動も点か
ら面に拡大、地域住民の日常生
活に最も身近な生涯学習の担当
者として活躍している。今日も
のどかな農村地帯の館で紅葉に
つつまれた静かなたたずまいの
中で書道、明日は絵手紙と講座
が続く、これからも一層の活躍
を期待してやまない。
(上越市立公民館長補佐
太田正文記)

「自ら活動に参加する公民館活
動の実践」に向かって日夜努力
を重ねていられます。
休みの日にはどこかの山の中

山歩きは
一週間の活
性剤のよう
な人。とに
かく、自分

のデスクに居ることが少なく行
動派の人である。趣味は、山歩
きと岩石集め、それにお酒
少々・たばこ少々・軽快ナリス
ムのカラオケ少々と多彩。
着任早々より、文化施設の建
設に伴ういろいろな仕事で、昨
日は若手、今日は山口と全国各
地を駆け巡り、もう既に12月。
全国視察はまだまだ続きそうだ。
(社会教育課 渡辺栄一記)

新潟県社会教育協会主催

新潟県生涯学習振興大会開催

新発田市生涯学習センターで

さる11月18日、県下

市町村の第一号として

竣工オープン間もない

新発田市生涯学習セン

ターを会場として、新

潟県生涯学習振興大会

が開催された。

その主な内容は次のとおり。

【発表者等の敬省略】

講話 「市政と生涯学習」

新発田市助役 藤倉 庄平

センター施設説明

新発田市生涯学習センター長

鈴木 博信

実践発表

「心の豊かさ幸せを求めて」

安塚町教育長 大狹 春雄

「村おこし守門大学実践事例」

守門村社会教育指導員

この生涯学習振興大会は、社

団法人新潟県社会教育協会が新

発田市教育委員会と共催で開催

したもので「心豊かな地域づく

りを目指す生涯学習の推進」を

主題に、午前十時三十分から午

後四時まで熱心な研究討議が繰

りひろげられた。

村上市岩船郡生涯学習振興大会開催

関川村公民館を会場に

11月25日、岩船郡関川村公民

館を会場に、第五回村上市岩船

郡生涯学習振興大会が開催され

た。

この大会は、管内の教育委員

会連絡協と公民館関係者が中心

となつて、生涯学習振興に関す

る研修を深めることを目的にし

た大会である。

はじめに、この会に功勞の

あつた六氏に表彰状を、一氏に

感謝状が、同市郡公連会長鈴木

敏夫氏から贈られた。

続いて、「コミュニティ活動を

考える」をテーマに、次の諸氏

桑原 昭三

「各課の連携・協力をどう進め

るか」

村上市生涯学習推進対策室長

瑜伽 徹生

「山北町の生涯学習推進の現状

と課題」

山北町生涯学習係長

本間 清

「生涯学習とまちづくり」

紫雲寺町中央公民館長

小林 豊男

講演

「生涯学習とまちづくり」

横浜国立大学教授

吉川 弘

組み 関川村地域振興係長

佐藤 義雄

魅力ある集落事業の現状

山北町ふるさと創越会

事務局長 斉藤 明

無人販売所を開設して

神林村下助淵区長高橋 勇平

司会 朝日村派遣社教主事

高橋 勝也

講評 下越教育事務所社教課

副参事 住安 紀彦

午後は記念講演、「誇り高き

リーダーに」と題して、紫雲

寺町教育長新野喜美夫氏の講演

で閉会した。

越後民謡研究会

新潟県民謡紀行

生涯学習・社会教育の現状

新潟県教育委員会

歩み地域視聴覚ライブラリー

制度発足20周年記念誌

新潟県視聴覚ライブラリー

連絡協議会

文芸さんぽく、第9号

山北町教育委員会

文芸むらかみ

文芸むらかみ編集委員会

村上市教育委員会

あとがき

◆あわただしくトリ年の一年が

過ぎようとしています。期待し

ていた景気回復は、その兆も見

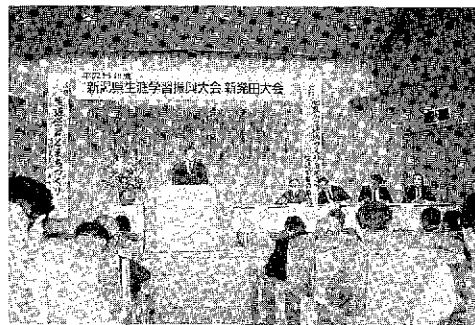
えず、世の中は不況の風が吹き

荒れています。

◆こうした時こそ、公民館は地

域づくりの先導役。大いに底力

を発揮しましょう。(上村記)



発行所 新潟県公民館連合会
 【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
 【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 細川 正博
 編集人 事務局長 上村 捨一郎
 【定価1部130円 年共1,560円】

著者の品田尚道氏は昭和62年
 度から平成2年度の4か年にわ
 たり、柏崎市中央公民館に勤務
 し「地域振興」の仕事に取り組
 んだ方。この冊子はその時の仕
 事をまとめたものである。

中央公民館の仕事とともに市
 内21地区に配置された地区公民
 館ならびに、それと併設されて
 いるコミュニティセンターの運
 営にかかわる指導や助言の活動
 について回顧録風に記されてい
 る。 B5判 52ページ